

## 市長提案説明要旨

令和5年8月31日

本日ここに令和5年第3回鹿嶋市議会定例会の開会に当たり、市政運営に関する所信の一端と、当面の事業概要並びに提出しました議案などのご説明を申し上げます。

### 《はじめに》

#### <敬老の日>

9月に敬老の日を迎えるに当たり、高齢者の皆様のご長寿を心よりお喜び申し上げます。今年度、本市で100歳を迎えられる方は15名、101歳以上の方は24名おり、最高齢の方は105歳になられます。

先日、敬老のお祝いを申し上げるため、100歳を迎えられる5名の方のご自宅を訪問させていただきました。お会いした方々は、本当にお元気で、日常的に畑仕事や散歩を行うなど、活発に活動されていらっしゃいました。食事につきましても、「3食、山盛り食べます。」とか「お肉が大好きです。」ということで、体を動かすことや食事をきちんと摂ることの大切さを感じました。また、厳しい時代を生き抜いてこられた方々のお話は、人生の大先輩として、言葉の一つ一つに重みがあり、改めてその功績に尊敬の念を抱いたところでもあります。

8月1日現在、本市の高齢化率は32.37%となっており、今後も更に進行する高齢化に対応するため、今年度、本市では、高齢者福祉計画・介護保険事業計画である「はつらつ長寿プラン21」第9期計画を策定中であります。引き続き、高齢者の皆様が住み慣れた地域で、より安心して暮らし続けることができる地域づくりを推進していくため、地域包括ケアシステムの充実を図ってまいります。

#### <今後の市政運営>

20年後、30年後も鹿嶋市が鹿嶋市であり続け、市民に寄り添った行政サービスを継続して提供していくためにも、本市を取り巻く社会経済状況を、職員はもとより、市議会議員、そして市民の皆様にご理解いただく必要があるものと考えております。

私は、職員に対し、これを一本の樹木の管理に例えて説明しております。まず、樹木が地中から摂る栄養分を歳入といたしますと、この主たるものが市税となります。この市税は、超少子高齢社会の進行や市内基幹産業の構造改革などにより、年々減少していくことが見込まれております。一方で、樹木の幹や枝葉を歳出に例えますと、本市の政策や施策は、これまで十分な剪定などの管理が行われておらず、痩せ細る土壌や根に釣り合わない枝葉を茂らせている状態にありました。このため、

現在、「無理・無駄・ムラ」を、剪定にあたる「やめる・減らす・変える」作業により事務事業の断捨離を行っているところでございます。

令和2年に策定いたしました鹿嶋市人口ビジョンでは、2050年に本市の人口は約1割減少するものと推計しております。人口の減少は、まちの活力の低下や市税の減少につながるため、樹木が地中から吸収する栄養分の不足が懸念されます。このため、まずは短期的な栄養補給として、ふるさと納税推進事業の拡充に取り組むことで、減少が見込まれる1割の人口分に相当する市税を補ってまいります。また、中長期的な対策といたしましては、洋上風力発電をはじめとする次世代エネルギー関連産業の集積と、そこで生成されたクリーンエネルギーの市内既存産業での活用を図り、経済と環境の好循環の創出による、いわば「土壌改良」に取り組むことで、市税の確保、そして、人口減少の歯止めにつなげてまいります。この取り組みは、国が進める「グリーン成長戦略」にも寄与し、本市が新しい価値を生み出す産業都市として発展するための礎になるものと考えております。

まずは、しっかりと根を張らせるための取り組みを着実に推進するとともに、枝葉の管理を適切に行いながら、多くの人が集まり憩う樹木に当たる、「まち」を育ててまいります。

### <EBPMの推進>

現在、国や全国の自治体で、EBPM（確かな証拠に基づく政策立案）が推進されております。EBPMは、これまでの個人的な経験や勘、固定観念や先入観、エピソードや慣例などにとらわれるのではなく、データや科学的な証拠に基づいて政策決定を行っていくものです。このEBPMを推進するための効果的なツールとされているのがロジックモデルであります。

本市におきましても、事業の断捨離と合わせて、第4次鹿嶋市総合計画に掲げた施策と、それを実現するための事務事業との結びつきを「見える化」するために、全庁的にロジックモデルの導入を進めてまいりました。

専門の外部講師を招へいし、現在まで、部長級職員から課長補佐級職員までの約120人の職員が研修を修了し、それぞれの担当業務でロジックモデルを活用しております。これにより、総合計画に掲げた施策を広い視野をもって考察しながら、設定した指標の達成に向け、既存事業の効果検証を行うとともに、新規事業についても根拠に基づいた事業展開を行ってまいります。

今後も、本市が持続可能かつ選ばれる自治体になるために、限りある行政資源を最大限に生かした戦略的な行財政運営を推し進め、市民サービスの向上につなげてまいります。

### <鹿島アントラーズ>

6月18日、JリーグYBCルヴァンカップグループステージの最終戦において、鹿島アントラーズがアルビレックス新潟に2対0で勝利し、グループステージを勝

ち上がりました。9月6日から始まるプライムステージでは、名古屋グランパスと準決勝をかけて戦うこととなります。また、明治安田生命J1リーグも後半戦に入り残り9戦となっています。

2018年のAFCアジアチャンピオンズリーグ優勝以来となる5年ぶりのタイトル獲得に向け、市民一丸となって応援することが選手たちの励みになると思います。市民の皆様におかれましては、是非ともスタジアムに足を運んでいただき、我らが鹿島アントラーズを応援してまいりましょう。

### 《事業の概要等》

続きまして、鹿嶋市のまちづくりの実績と当面の事業概要について、ご説明申し上げます。

### (共に学び成長しながら生きる／元気で賢い鹿嶋っ子育成)

#### ○学校教育の取り組みと成果

テクノロジーによってオンライン空間と現実空間をつないで、様々な社会問題を解決する、人々が暮らしやすい社会「Society 5.0」の社会を主役として生き抜かなければならない子どもたちにとって、生成AIと正しくコミュニケーションがとれる国語力は生きていく上で重要な力になります。そこで、読む力、書く力の一層の向上を目指して、新聞記事を基に作成した教材「よむYOMUワークシート」を、小学4・5・6年生、中学生に向けて9月から試験的に導入します。この教材を活用することで、読み解く力を身に付けるとともに、言語能力や情報活用能力、論理的思考能力を伸ばし、要約すること、書くことなどの表現力の向上を図ってまいります。

また、SNSなどでは、自分が必要な情報のみを取得しがちですが、この教材を導入することで、様々な社会的事象に目を向け、多角的に判断する力を養い、他者の気持ちを考えた行動がとれる子どもを育ててまいります。

本市では、平成28年度より、学校で学んだ英語を活用する機会として、市教育センターにおいて、小学生向け英会話教室English Lounge（イングリッシュ・ラウンジ）を開催しております。この事業では、積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする意識を養うとともに、世界の文化・習慣・考えなどを体験する機会となっており、小学3・4年生は夏休み期間中、小学5・6年生は月1回の土曜日を利用して、希望した児童が指導を受けております。

このような英語教育に関する取り組みを継続的に行った結果、8月2日に開催された茨城県教育委員会主催の英語プレゼンテーションフォーラム鹿行地区予選では、3つの代表枠を鹿島中学校、平井中学校、鹿島高校附属中学校の鹿嶋市内の3校が独占しました。また、3校につきましては、8月22日につくば国際会議場に

において開催された県大会に出場し、鹿島高校附属中学校が奨励賞を獲得するなど、市内の子どもたちの英語力が着実に伸長しているものと感じております。

### ○かしま子ども大学事業

小学5・6年生を対象とした「かしま子ども大学」を7月1日に開校し、第4期生38名が受講しております。

初回の「地球・月・太陽の関係を知ろう」の講義では、国立天文台天文情報センター天文保持室長で鉢形地区在住の布施哲治先生から、天体の大きさやその距離などを学びました。また、第4回の講義においては、4月にオープンしたセイビ堂ドリームパークを会場として、セイビ堂代表取締役CEOの阿部慎也さんを講師に招き、AIを活用したグラフィックデザインやチャットGPTを体験しました。このほか、JICAつくばでの国際協力理解に関する学習や、常盤大学でのイルカの生態学習、水戸地方裁判所での裁判所見学など、様々な学習を行っております。

また、今月7日には、新たな試みとして小学3・4年生を対象に「かしま子どもプレ大学」も開校しました。当日は、ボディーペインティングを体験し、子どもたちは絵具だらけになりながら大きな布のキャンパスに自分の思いのままの絵を描いておりました。

いずれの事業も、学校の授業では学べない様々な体験が、子どもたちの夢への第1歩へとつながることを願っております。

## (スポーツに親しみ健康に生きる／暮らしやすく、生きがいのあるまち鹿嶋)

### ○鹿嶋サッカーフェスティバル

鹿嶋サッカーフェスティバルが7月28日から8月20日まで、ジュニアの部、ジュニアユースの部、ユースの部、レディースの部に分けて開催されました。今年は、県内外から合計104チーム、約2,000人の選手の皆様が参加し、熱戦を繰り広げました。

特に、ジュニアユースの部におきましては、中国・瀋陽（しんよう）市の「瀋陽鑫遠翔足球倶楽部（しんようきんえんしょうそっきゅうくらぶ）」の参加がありました。サッカーフェスティバルへの出場のほか、市内中学生との交流などを通して、親睦を深めておりました。

### ○新型コロナウイルスワクチン接種

新型コロナウイルスワクチンの接種につきましては、9月20日から、初回接種を終了した生後6カ月以上のすべての方を対象とする「令和5年秋開始接種」が始まることから、現在その準備を進めております。「秋開始接種」では、現在、感染の主流となっているオミクロン株の「XBB 1.5」に対応した新しいワクチンを使用することになっており、特に高齢者や基礎疾患がある方など、重症化リスクが

高い方につきましては、積極的な接種の検討をお願いいたします。

市といたしましても、引き続き、国の方針などを踏まえ、市民の皆様が安全かつ円滑に接種できるよう市内医療機関のご協力をいただきながら接種体制の確保に努めてまいります。

### **(環境未来都市・鹿嶋をつくる／行ってみたい、暮らしてみたい鹿嶋)**

#### **○資源循環と持続可能な社会形成に関する包括連携協定**

市では、廃棄物の資源化・減量化を推進するための新たな取り組みとして、今月6日に、本市と株式会社鹿島アントラーズ・エフ・シー並びに東洋製罐（とうようせいかん）グループホールディングス株式会社との3者間で「資源循環と持続可能な社会の形成に関する包括連携協定」を締結いたしました。

この協定は、地域課題の解決に向け、本市をホームタウンとする「鹿島アントラーズ」の発信力を生かし、さらには、包装容器における国内トップクラスの企業である「東洋製罐グループ」の持つ、資源循環に係る幅広い知見と連携することで、リサイクルの見える化が図られるものと期待しております。

具体的な取り組みといたしましては、カシマサッカースタジアムや市内スポーツ施設における資源ごみの回収実験を行うほか、小中学校や地域において、資源循環を身近に感じながら取り組めるイベントや啓発活動などを実施してまいります。

今後は、3者連携による取り組みを推進することで、地域における資源の収集・循環のリサイクルの強化を図り、より住みやすく持続可能なまちづくりにつなげてまいります。

#### **○鹿嶋市プレミアム付き商品券事業**

長く続いたコロナ禍に加え、電気・ガス代、原材料などの価格高騰により影響を受けている市民への生活支援と市内の事業者支援、そして、事業者のデジタル化の推進を目的として、今年も、「プレミアム付き商品券」をデジタル商品券と紙商品券の2種類に分けて販売いたします。詳細につきましては、9月1日号の広報かしまに購入申し込み方法を掲載いたしますので、ぜひお申し込みいただき、市内でのお買い物やお食事の際にご利用いただきたいと思います。

#### **○第30回鹿嶋まつり**

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、3年間中止となっていた「鹿嶋まつり」ですが、今年は10月21日・22日の2日間、4年ぶりに開催いたします。

カシマサッカースタジアム周辺を会場に、恒例の物産展や、野外ステージでのキャラクターショーなど盛りだくさんの催しを予定しております。

また、「みんなのひろば」も同時開催いたしますので、多くの皆様のご来場によ

り、4年ぶりとなるイベントが大いに盛り上がることを期待しております。

## **(スマート&コンパクトな鹿嶋をつくる／暮らしやすく、生きがいのあるまち鹿嶋)**

### **○公民連携による道路管理**

今年6月、道路の維持管理における市民の満足度向上のために、DX（デジタルトランスフォーメーション）による取り組みとして道路維持管理に関するシステムを導入いたしました。

市では、道路の維持管理コストの上昇、技術職員の高齢化が進む中、道路維持管理の効率化と人的コストの削減を目指して、様々な企業・組織がもつ資源や技術、アイデアを活用した新たな取り組みを展開するという企業体である「グローバルオープンイノベーション」を通じ、出光興産株式会社との公民連携事業の検討を行ってまいりました。

昨年度、実施した実証事業において、市内を高頻度かつ広範囲に配送する出光興産出資企業のガス配送車両と本市の公用車に、AIによる道路損傷検知アプリを搭載したスマートフォンを取り付けることで、路面の損傷が検知され、損傷のデータが市役所のパソコンに転送されるようになり、職員が庁舎内で勤務しながら路面の状況を確認できるようになりました。

この結果から、事故を未然に防ぐための路面補修の即時性・必要性や、交通安全への影響などを判断することが可能となり、担当職員の作業時間の低減など、日常の維持管理業務の改善に効果があると確認できたことから、システム導入に至りました。

この取り組みにつきましては、先日、28日にNHK総合テレビにおいても放映されたところであります。今後も、このシステム導入に伴う道路維持管理の最適化により生み出された担当職員の作業時間を、市民満足度の向上に資する「丁寧な市民対応」、そして「安全で安心な道路の維持管理」につなげてまいります。

### **○令和5年度鹿嶋市総合防災訓練**

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、中止となっていた「鹿嶋市総合防災訓練」を10月1日に、カシマサッカースタジアムA駐車場などを会場として、4年ぶりに実施いたします。

今回の総合防災訓練は、日本海溝、千島海溝沿いを震源とする大規模地震を想定し、災害対応の中心的な役割を担う市職員の参集伝達訓練と、地域住民の皆様を対象とした津波避難訓練を行います。また、災害時の応援協定を締結している企業の皆様などにご協力をいただき、防災・減災に関する展示や体験エリアを開設し、市民の皆様の防災に対する理解と防災意識の高揚につなげてまいります。

地震や津波などの自然災害は、こうした訓練や、日頃からの備えを充実すること

で、被害を最小限に抑えることが可能であると考えておりますので、多くの市民の皆様参加をお願いいたします。

以上、まちづくりの実績と当面の事業概要についてご説明申し上げます。

### 《決算認定》

次に、本定例会で認定いただく、令和4年度決算についてであります。

一般会計につきましては、歳入総額が、前年度比6.0%減の272億3,281万4千円、歳出総額が、前年度比2.8%減の265億8,369万4千円となりました。

歳入は、法人市民税や固定資産税などの市税が増となる一方、新可燃ごみ処理施設に係る震災復興特別交付税などの地方交付税や児童福祉費補助金などの国庫支出金などが減となっております。

歳出は、主なものとして、商工費がプレミアム付き商品券事業などで増となったほか、教育費が高松中学校の大規模改造事業や物価高騰の影響による学校給食センター経費などで増となった一方、ガバメントクラウドファンディングに係るホームタウン推進事業の減などにより総務費が減、子育て世帯への臨時特別給付金給付事業の減などによる民生費の減、鹿島地方事務組合負担金の減による衛生費の減、鹿島神宮周辺地区に係る都市再生整備事業などの減により土木費が減となりました。

実質収支は、6億1,614万7千円の黒字となり、この2分の1相当額以上となる3億1,000万円を財政調整基金へ積み立て、本年度への繰越金は3億614万7千円となっております。

特別会計につきましては、7会計の総計といたしまして、歳入が0.1%減の130億1,378万8千円、歳出が0.2%増の126億9,669万9千円となり、歳入歳出の差引額は3億1,708万9千円の黒字となりました。

将来に渡り市民に寄り添った行政サービスが提供できるよう、事業の整理整頓を進めるとともに、本市の予算規模を的確に推計し、その予算規模に応じた事業展開を行うなど、持続可能で安定的な財政運営に向け、引き続き行財政改革の取り組みを進めてまいります。

### 《提出議案等》

次に、提出しました議案についてご説明申し上げます。

提出議案は、予算関係議案が5件、条例関係議案が1件、諮問関係議案が3件、認定関係議案が3件の、合わせて12件であります。

予算関係議案は、令和5年度一般会計及び特別会計などの補正予算であります。

一般会計補正予算については、既定の歳入歳出予算の総額にそれぞれ1億4,960万9千円を追加し、総額243億9,092万3千円となりました。

歳入の主なものといたしましては、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金及びブルーツーリズム推進支援事業費補助金などによる国庫支出金の増、介護保険特別会計繰入金などによる繰入金の増、前年度繰越金の増などを見込みました。

歳出の主なものといたしましては、税還付金による還付金関係経費の増、鹿行広域事務組合負担金による老人保護措置事業の減、ブルーツーリズム推進支援事業に係る観光施設管理費の増、道路維持に係る道路維持補修費の増などを見込みました。

国民健康保険特別会計補正予算については、国庫支出金などの補正であります。

介護保険特別会計補正予算については、令和4年度決算に係る諸支出金などの補正であります。

水道事業会計及び下水道事業会計については、職員給与費などによる補正であります。

条例関係議案は、「鹿嶋市行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を改正する条例」であります。

諮問関係議案は、人権擁護委員候補者の推薦について、議会の意見を求めるものです。

認定関係議案は、令和4年度一般会計及び特別会計などの決算認定についてであります。

私の説明は以上で終わりますが、予算及び決算認定以外の議案については、総務部長から補足説明をいたします。

お手元の議案書によりご審議のうえ、適切な議決を賜りますようお願いいたします。